

第十三回 帝國議會 衆議院 商法修正案審查特別委員會速記錄

(第一號)

(六四)

明治三十二年二月六日午前十時五十七分開議

○委員長(大岡育造君) ツレデハ是カラ商法修正案委員會ヲ開キマス、先ヅ最初ニ政府委員カラ、御説明ヲ受ケマセウ

○(花井卓藏君) 御説明ヲ請ヒマスルニ付イテハ、十二議會ニ提出ニナリマシタルト、此案ト違ッテ居ル點ヲ、先ヅ第一ニ御説明ヲ請ヒマシテ、サウシテ尙ホ此案ノ御説明ヲ請フコトニ致シタイ

○政府委員(岡野敬次郎君) 此修正案ハ前期ノ議會ニ提出シマシタルト、大體ニ於テハ變ラヌノデアリマス、多少修正ヲ加ヘタ點ガアリマスルノデ、修正ヲ加ヘマシタ點ダケヲ簡單ニ申上ゲマス、前方ニチヨット御斷リ申上ゲマスルガ、前ノ修正案ハ箇條ノ數ガ六百八十五條デアッタノデアリマス、今度修正ノ結果デ四條殖エマシテ六百八十九條ニナッタノデアリマス、或ハ箇條ヲ削除致シマシタリ、或ハ新タニ加ヘタリナドシマシテ、此商法修正案全體ノ中ニ於テ此引用シテアル箇條ハ、ツレニ從ッテ數ヲ改メタノデアリマス、其改メタ點ハ修正ノ自然ノ結果デアリマスカラ、此點ニ附イテハ特ニ説明ヲ致サヌ考デアリマス、先ヅ第一ニ第十四條デアリマス、第十四條ハ是ハ正誤ノ方ニ屬スルノデアリマス「登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ云々」トアリマスガ、此「抵」ノ字ハ手扁ノ誤リデアリマス、ツレカラ次ハ第四十二條デアリマス、第四十二條ニ「本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ」トアリマスガ、前修正案ニ於テハ「設立シタルモノヲ謂フ」トアリマシタガ「モノ」ト云フコトハ、如何ニモ漠然トシテ居ルシ、且ツ商事會社ニシテ、一人ニシテ會社ヲ設立シテ居ルト云フモノモアリ得ベカラザルコトデアアルカラ、寧ロ社團ト云フ文字ヲ使フガ、穩當デアラウト云フ理由カラ改メマシタ、次ハ第四十四條ノ第二項ニ「會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス」トアリマスガ、前修正案ニハ是ニ但書ガアリマシタ但支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ノ所在地ニ在ルモノト看做ス」ト云フ但書ガアリマシタガ、是ハ今回削除致シマシタ、其理由ハ如何ニモ會社ノ住所ガ、支店ノ所在地ニ在ルモノトスルト云フコトハ、法律デ極メレバツレマデ、アルケレドモ、元來本店ノ所在地ニ在ルト云フコトハ固ヨリノコトデ、唯或場合ニ於テ支店ノ爲シタル取引ヲ、一々本店ノ所在地マデ行ッテ履行スルト云フコトハ、不便デイカヌカラ、便宜ノタメニ此但書ト云フモノヲ置イタノデアリマスガ、今回ハ此修正案ノ第二百七十八條ノ第三項ヲ加ヘマシテ「支店ニ於テ爲シタル取引ニ附テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス」斯ウ云フ箇條ヲ新タニ加ヘマシタ、以前ハ此三項ト云フモノガナカッタノデアリマス、第四十四條ニ於テ但書ヲ削除致シマシテ、同一ノ趣意ヲ以テ茲ニ新タニ第三項ヲ加ヘタ譯デアリマス、適用ニ至ッテハ固ヨリ此前修正案ノ但書ト、

此修正案ノ二百七十八條ノ第三項ト同ジコトデアリマス、實質ニ於テハ變更ハナカッタト申シテ宜シイデアリマス、次ハ第五十八條ニ「定款ノ變更其他會社ノ目的ニ屬セサル」ト以前ハアリマシタルヲ、今回ハ「範圍内ニアラサル」ト云フコトニ改メマシタ、是ハ民法ノ文面ガ斯ノ如キコトニナッテ居ルト云フ理由カラ、文章ヲ合ハセルタメニ修正シタルデアリマス、次ハ第六十條ノ二項三項ト云フモノハ新タニ加ヘタノデアリマス、前ノ修正案ノ第二項ニ於キマシテハ「第三十二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス」トアッテ矢張此修正案ノ三十二條ノ二項三項ノ規定ヲ準用スルト云フコトハ、誠ニ其趣意ガ不明デアルト云フ點カラ、書碎イテ今回ノ修正案ノ如ク改メタノデアリマス、法文ノ趣意ニ至ッテハ矢張前ト變ラヌ考デアアル、次ハ第六十八條第一項ニ行目ニ「各社員ハ營業年度ノ終リニ於テ」トアリマスガ、以前ハ「事業年度」トアリマシタ、ツレヲ「營業年度」ト改メマシタ、是ハ會社ハ商行爲ヲナスガタメニ設立スルモノデアアルカラ、事業ト云フヨリハ營業ト云フ方ガ、穩當デアルト云フ所カラ改メマシタ、次ハ第八十六條ノ二行目ニ「後十三條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス」トアリマスガ、以前ハ是ハ「十四條」トアリマシタ、十四條ヲ十三條ト改メタ理由ハ、別ニ申サヌデモ分リマセウ、次ハ第二百二條デアリマスガ、前修正案ニハ第三項ガアリマシタ、其第三項ニハドウ云フコトガ規定シテアッタカト云ヒマス「社員ガ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ前三項ニ定メタル權利ヲ行フモノ一人ヲ定ムルコトヲ要ス」トアリマシタ、此相續人數人アルト云フコトハ、必シモ此清算人ノ選任トカ、或ハ清算ヲ自ラナスト云フ場合ニ限ルノデナク、或ハ清算人ノ解任ト云フ場合ニ、同ジヤウナ趣意ノ規定ガ必要ナノデアリマスカラ、之ヲ廣ク適用スル方ガ、穩當デアルト云フコトヲ認メテ、此修正案ノ第二百二條ヲ新タニ加ヘマシテ、第二百二條ニハ「社員ガ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス」ト云フコトヲ新タニ加ヘマシタ、此箇條ノ適用ハ、前修正案ニ於テ第八十七條第一項第二項ノ場合ニノミ適用スルノデナク廣クナリマシタ、次ニ、第九十一條ハ新タニ三項ヲ加ヘタノデアリマス「清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス」ト云フコトヲ新タニ加ヘマシタ、併ナガラ前修正案ノ第九十四條ニ於テ同一ノ規定ガアリマシタガ、是ハ第九十一條ニ合併スル方ガ穩當デアラウト云フ點デ、即チ前ノ九十四條ヲ削除シテ、之ヲ此修正案ノ九十一條ノ第三項トシテ加ヘマシタ、ツレカラ次ハ第百條ノ終リニ於テ「此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス」トアリマス、前ニハ第八十八條ノ規定ヲ準用ストアリマシタガ、第八十八條ノ規定ヲ準用ス

ルト云フコトハ、ドウ云フコトカト云フト、此修正案ニ少シソレヨリモ長イ文章ヲ以テ加ヘタダケノコトデアッタ殊更ニ準用ト云フコトヲ斷ラヌデモ、之ヲ明カニ書ク方ガ宜カラウト云フコトデアリマシタ、趣意ニ於テ變リハナイ、次ハ第百一條ニ「清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス云々」トアリマスガ、前ニハ此第百一條ニ掲ゲタル所ノ書類ハ「本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス」ト云フ簡單ナモノデアッタノデアリマス、併ナガラ此清算ニ關スル書類ト云フモノヲ、解散ノ登記ヲ爲シタルトキカラ、十年間保存スルコトニ致スト、起算點ガ奇妙ナモノデアアル、清算ニ關スル書類ハ何時出來ルカト云ヘバ、解散ノ後ニ於テ出來ルノデアアル然ルニ其清算ニ關スル書類ハ解散ノ登記ヲ爲シタルトキカラ、十年間ニスルト理窟ニ合ハヌ話デアアルカラ、ソレデ此本則トシテハ、清算終了ノ登記ヲナシタル後十年間保存スルコトヲ要スト云フコトニ、改メル方ガ穩當デアアル、株式會社ノ部ニアッテモ矢張清算終了ト云フコトヲ起算點トシタルデアリマス、唯合名會社ニアッテハ、第八十五條ニ於テ必シモ法律ニ定メタル所ノ清算ノ手續ヲセヌデモ宜イ、即チ定款ヲ以テ或ハ社員ノ一人ニ會社ノ財産ヲ全部賣ッテシマフトカ、或ハ社員ノ同意ヲ以テ外ノ會社ニ總テ賣ッテシマフコトヲ許シテアル、是ハ株式會社ナドニハナイコトデアリマシテ、合名會社トソレカラ此修正案ニ認メタル合資會社ノ二ツニ限リ、斯ウ云フ自由ニ財産處分方法ヲ認メタモノデアッテ、法律ニ定メタル清算手續ヲ行ハナイモノデアアルカラ、從ッテ他ノ場合トハ標準ヲ異ニシナケレバナライ、ソレテ第八十條ノ場合ニ於テハ、保存ノ書類ハ清算終了ノ登記ヲシタル後十年間トシタルデアリマス、ソレカラ百二條ヲ新タニ加ヘマシタコトハ、他ノ箇條ト牽聯シテ申シマシタ通デゴザイマス、次ニ百八條デゴザイマス、是ハ財産ノミヲ以テ其「ト云フ文字ヲ新タニ加ヘマシタ、次ハ百十一條事業年度トアルヲ、營業年度ト改メマシタノハ、先刻申シタ通ノ理由デアリマス、次ハ百十二條有限責任社員ハ無限責任社員全員、此全員ト云フ二字ヲ加ヘマシタノハ、是ハ他ノ箇條ト牽聯シテ、全員ト云フコトヲ書ク方ガ明瞭デアアルト云フ理由ニ過ギマセヌ、ソレカラ次ハ百二十六條第二項ノ第二號ニ「第百二十條及第百二十二條ニ掲ケタル事項」前修正案ニハ第一項第三項乃至五項ト云フコトデ、第百二十二條中ノ二號ヲ殊更除イテアッタ、即チ株式ノ額面以上ノ發行ト云フコトハ、株式申込書ニ書カナイデモ宜シイト云フコトデアッテ、是ハ斯ウ云フ理由デアッタノデアリマス、第百二十二條ニ定款ニ記載シテナケレバナラヌト云フ事項ヲ舉ゲテ、株式ヲ額面額百圓ノモノヲ、或ハ百圓圓ナリ百五圓ナリヲ發行スルコトハ、實際ニアリ得ルモノデアアル、ソコデ百二十二條ニハ、唯此會社ニアッテハ株式ヲ額面以上ニ發行スルト云フコトヲ定款ニ書イテ置ク、サウシテ愈々株主ヲ募集スル場合ニハ、此株式申込

書ニ株式發行ノ價格、即チ百圓圓ナリ百五圓ト云フ金額ヲ書カセル積デアアル、ソレデアアルカラ殊更此株式ノ額面以上ノ發行ヲ除イタルデアリマス、併ナガラ今度ハ「額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス」ト云フ、此第三項ヲ新タニ加ヘタルデアリマス、サウシマスルト以前ハ百圓圓トカ百五圓トカ云フコトヲ掲ゲル筈デアッタノガ、今度ハ申込人ノ方カラ、自分ハ百一圓ヲ引受ケヤウトカ、百五圓ヲ引受ケヤウトカ云フコトニナツテ、從ッテ是ト牽聯シテ、此二號ニ於テ第百二十二條ノ第二號ト云フモノヲ除イテ置クト云フ理由ハ無クナツタノデアリマス、ソレカラ次ニ百三十條ノ第一項ニ「其權利ヲ失フヘキ旨」トアリマス、是ハ「コトアルヘキ旨」トアル「コトアル」ト云フ四字ガアッタノヲ削リマシタ、ソレカラ二項ニ「株式引受人ガ拂込ヲ爲サ、ルトキハ其權利ヲ失フ」此場合ニ於テ」是ダケノ文字ヲ新タニ加ヘマシタ、一項ニ於テハ四字ヲ削リ、二項ニ於テハ新タニ文字ヲ加ヘタルハ、是ハ百五十二條ノ二項ニ「株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得」ト云フコトガアル、ソレカラ百五十三條ノ一項ニ「株主カ拂込ヲ爲サ、ルトキハ其權利ヲ失フ」トアリマシテ、此百五十二條ト百五十三條ト云フモノヲ文章ヲ一致サセルガダメニ、前ノ方ヲ改メタルデアリマス、次ハ第百三十一條ノ第三項ニ「及ヒ第百六十三條第一項第二項」トアル、是ハ第一項第二項シカ適用ガナイノデアアル、法典調査會ノ文例ニ依ッテ準用シナイモノハ、殊ニ省クト云フコトデアッテ、一項二項ヲ準用スルト云フコトニ改メマシタ、ソレカラ百三十二條、是ハ「發起人ハ創立總會ニ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス」トアッタノデ、創立總會ヲ下ノ方ニ持ッテ來タ、是ハ法文上穩當デアラウト思ヒマス、次ハ百四十五條ノ次ニ百四十六條トシマシテ、株式ハ之ヲ分割スルコトヲ得ズト云フ規定ガアッタノデアアル、其規定ヲ削除致シマシタ、是ハ此項ノ修正案ニ於テモ亦此修正案ニ於テモ、株式ノ金額ハ五拾圓ヲ下ルコトヲ得ナイト云フコトヲ定メ、又五拾圓ヲ發行シタルナラバ、必ズ全體ノ株式ノ金額ガ五拾圓デナケレバナラヌト云フコトニ、第百五十五條ノ適用カラ必ズサウナルデアラウト思フノデアリマス、五拾圓ヲ下ルコトヲ得ナイト云フ金額ノ上ニ制限ヲ設ケ、且又其金額ハ必ズ均一デナケレバナラヌト云フコトヲ定メテ置ク以上ハ、株式ヲ分割スルコトヲ得ズト云フ、規定ノ趣意ガ殆ドナイノデアリマスカラ、此規定ヲ削除シタルデアリマス、次ハ百四十七條第二項ニ「前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ之ヲ無効トス」トアル「之ヲ」ト云フ二字ヲ削リマシタ、是モ文例ニ從ッタルデアリマス、次ハ百五十三條ノ第二項、是ハ少シ錯雜シテ居ルノデアリマスガ、前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス」是ガ元ハ「拂込ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス」トアッタノヲ改メマシタルデアリマシテ、是ハ株主總會ヲ召集スルニ於テモ、又株主ガ株金ノ拂込ヲ怠ッタ場合ニ催告ヲスル、其催告ガ各株主ノ手ニ到

著シナケレバ、讓渡シナリ何ナリスルコトガ出來ヌ、併シ多數ノ株主ニ於テハ、或ハ其催告ガ届カヌト云フ場合モ起ル、其時ニ公賣ナドノ手續ハ無効ト云フ結果ヲ來スノデアリマスカラ相手ガ縱令受取ラナイデモ、會社ノ方ニ催告ヲ發シタト云フ證明ガアレバ宜シイ、偶、届カヌコトガアツテモ、會社ノ手續トシテハ差支ナイト云フダケノコトデアリマス、次ハ第三項デ、是ハ文章ダケノコトデ、以前ハ「讓渡人カ拂込ヲナサルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス若シ競賣ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ハ其不足額ヲ辨濟スル責任ニ任ス但シ從前ノ株主カ云々」トアリマシタノデ、是ハ文章ニ修正ヲ加ヘル方ガ宜カラウ、又明瞭デアラウト云フコトデ改メタノデアリマス、次ハ第六十一條ノ第三項ニ「但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス」是ハ元ト「但其代理人ハ委任狀ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス」トアツタノデ、是ハ普通ノ代理ノ委任デアレバ、委任ト云フモノガアルノデスガ、株主ニ未成年者モアリ、法定代理人ト雖モ、株主ニ代テ議決權ヲ行ヘルモノデアルカラ、法定代理人ト云フコトガアレバ宜シイノデ、且ツ委任狀ト云フ文字ハ餘リ面白クナイカラ、之ニ易フルニ代理權ヲ證スル書面ト云フコトニ改メタノデアリマス、次ハ第七十二條第一號ニ「株主ノ氏名、住所」此上ニ「各」ト云フ字ガアツタノデ、削ツタケデ、次ハ第七十三條、此條ノ規定ハ新タニ加ヘタノデスガ、前修正案ニ於キマシテハ、債券原簿ヲ備ヘナケレバナラヌト云フコトヲ第七十一條ニ定メテアル、且ツ「株主名簿及ヒ債券原簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス」ト規定シテアル、然ルニ株主名簿ニハ斯クノノコトヲ規定シナケレバナラヌト云フコトヲ定メテ置キナガラ、債券原簿ニハ記載スベキコトヲ斯クノノコトデアルト云フコトヲ書イテ置カナイノハ、缺點デアルト云フコトヲ發見シ、且ツ會社ノ罰則中ニ之ヲ記載シナカッタ場合、或ハ之ニ不正ノ記載ヲシタトキハ、取締役ガ科料ニ處セラレルト云フコトガアル、其科料ノ權衡ノ上ニ於テモ、債券原簿ノ上ニ記載シナケレバナラヌ事項ヲ定メテ置ク必要ガアルノデ、現行法ニハ別段ノ規定ハアリマセヌガ、特別法トナツテ出テ居ルモノニハ、是ト類似ノ規定ガアリマスカラ、此條ヲ新タニ加ヘタノデアリマス、次ハ第七十五條ノ第二項第三項ト云フモノハ、是ハ新タニ加ヘタノデアリマスガ、前ニハ先刻第六十條——此修正案ノ第六十條ニ附イテ説明致シタル通ニ「第三十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ社員カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス」トアツタノヲ、六十條ニ於テ此準用ノ主意ガ明瞭デナイカラト云フコトデ改メタ、其理由ト同シ理由ニ依ツテ第七十五條ニ於テモ改メタ譯デアリマス、次ハ第七十六條——第七十六條ノ「取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限リ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得」トシテ、前ノハ「承認ヲ得ルニ非サレハ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得」トアツタノヲ改メタノデ、取締役ハ免ニ角會社ノ代理人デアリマスカラ、民法ノ規定ニ於テモ法律上既ニ出來ナイコトニナツテ居ルノデ、出來ナイト云フ方ガ本則

デアツテ、茲ニハ例外ヲ設ケタノデアルカラ、承諾ヲ得タルトキニ限ツテ取引ヲナスコトヲ得ルト致シタノデ、趣意ニ於テハ變リハアリマセヌ、次ハ第九十條ノ第三號ノ「營業報告書」ト云フコトガアル、是ハ「事業報告書」トアツタノヲ改メタダケノコトデアリマス、次ハ第九十四條——第九十四條ノ「利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ貳拾分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス」是ハ前ニハ「二十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス」トアツタノデ、文章ノ前後ヲ致シタダケデアリマス、次ハ第九十六條——第九十六條ノ「前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス」以前ノハ、茲ニ「登記前ニ」ト云フ字ガアツタノヲ削ツタノデ、是ハ登記前ニト云フ文字ガナイ方ガ宜シイト云フノデ、削ツタノデス、次ハ二百三條——二百三條ニ「社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス」——是ガ前修正案ニハ九ツ列舉シテアツタノデアリマス、併ナガラ前刻述ベマシタ通、社債原簿ニ記載スベキモノヲ法律ガ定メテ、ソレニ附イテ第七十三條ノ規定ヲ新タニ入レタノデアリマスカラ、茲ニ公告スベキ事項中ニ第七十三條ニ掲ゲタル事項ヲ引用スルガ、却テ便利ニナツタノデアリマスカラ、二百三條ノ第一號ヲ「第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ゲタル事項」ト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ趣意ニ於テハ前條正文ト變リハゴザイマセヌ、詰リ第七十三條ヲ新タニ設ケタ結果デアアルノデゴザイマス、ソレカラ第二十四條——第二十四條ノ第二項ニ「株主總會ハ」ト冒頭ニアリマスガ、是ガ前ニ「報告ヲ爲サシメル爲メ株主總會ニ」トアリマシタノデ、是ハ文章上改マツタノデアリマス、ソレカラ次ハ第二十二條——第二十二條ノ終リノ方ニ「此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス」ト云フコトニ改メタノデ、是ハ先刻合名會社ノ方ニ矢張同様ノ規定ガアツタ、即チ第百條——此百條ノ關係カラシテ改ツテ來タノデアリマス、次ハ二百三十三條ノ「本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後」——是ハ以前ハ「解散ノ登記ヲ爲シタルトキハ」トアリマシタガ、解散ノ登記ト云フコトハ、原則トシテ穩デナイト云フコトハ先刻合名會社ノ規定ニ附イテ説明シタル通デアツテ、其趣意ニ依ツテ之モ改メタノデアリマス、ソレカラ次ハ第二百三十八條第二項「第二百二十二條第百二十六條第二項第一號第四號」其下ニ第五號ト云フノガアツタノデアリマスガ、是ハ先刻ノ株式會社ノ第二百二十六條ニ附イテ説明ヲ致シタル通、前修正案ニハ此百二十六條第二項中ニ五號ト云フノガアツタノデ、所ガ其四號ヲ削ラレタガタメニ、五號ガ繰上ツテ四號ニナツタノデアリマスカラ、自然ノ結果デ二百三十八條ニ於テ五號ト云フモノヲ削ツタノデアリマス、次ハ第二百四十八條ニ前修正案ニ於テハ、第三項トシテ「第八十七條第三項ノ規定ハ無限責任社員ノ相續人ニ之ヲ準用ス」トアル、之ヲ消シテ其代ハリニ二百五十條ヲ新タニ設ケタノデアリマス、第百二條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス、斯ウ云フ箇條ヲ新タニ加ヘタノデアリマス、此二百四十八條ノ三項ヲ削ツ

テ、二百五十條ノ規定ヲ新タニ設ケタ理由ハ、先刻合名會社ノ部ニ於テ、第八十七條ノ第三項ヲ削除シテ、サウシテ第二百一十條ヲ新タニ設ケタト少シモ變リハナイ、全ク同一ノ理由デアリマス、ツレカラ次ハ二百五十一條二百五十一條ニ清算人ハ第二百二十七條第一項——是ハ新タニ加ヘタノデ、及ビ第二百三十條第一項——此一項ハ二箇所ニ於テ加ヘタノデアリマスガ、是ハ先刻述べマシタ通ニ第一項ダケシカナイノデ——ナイノデハナイガ茲ニ必要ノアルノハ一項ニ限ルノデアリマスカラ、其タメニ斷ツタノデアリマス、ツレカラ「計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外」ト云フ文字ヲ加ヘタノデ、是ハ前ニモ矢張其意味ハ含マレタノデアリマスガ、少シク不明デアルト云フノデ、明瞭ニスルタメニ加ヘタノデアリマス、次ハ第二百五十三條ノ第二項デアリマスガ、前ニハ此第二項ナルモノハ、別條ニナツテ居タ、二百五十三條トナツテ居タノデアリマスガ、僅ニ之ヲ別條ニスルト云フ理由モナカラウト云フノデ、之ヲ改メマシタ、其結果デ第七十八條及ビ第七十九條第一項第二項ノ規定ハ、前條トアツタノ前項ニ改メマス、次ハ第二百六十一條第二號中ニ「本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ怠リ」此「爲スコトヲ」ト云フ文字ヲ加ヘタノデ、是ハ前ノ一項ヲ見テモ「通知ヲ爲スコトヲ」トアルノデ、文章ヲ改メタノデアリマス、次ハ第二百六十二條ノ九號ト第五號ト云フモノガ前後致シタノデ、元ハ今ノ九號ガ十號デアツタノヲ、之ヲ逆マシタノデアリマス、是ハ商法デアリマスカラ、民法ノ規定ヲ引張ルトキハ、一番劣尻ヘ持ッテ行ク方ガ宜イト云フ理由ダケデアリマス、次ハ二百六十四條……

○(花井卓藏君) 唯今ノ所デ會社ダケハ、全部濟ンダノデアリマスガ、一番修正モ多イ箇條ノヤウデアリマスカラ 質問等ハ此會社ダケ一遍ヤッタ方が、分リヨクハアリマセヌカ

○委員長(大岡育造君) 如何デス、今花井君ノ御意見モアリマスガ……

○(望月長夫君) 是ハドウデセウ、修正ニナツタ箇條全部ノ説明ヲ聞イテ、固ヨリ是ハ速記ニナルモノデスカラ、隨分會社ダケデモ記憶ハムヅカシイ、ツレデ速記ヲ見タ上デ、更ニ幾ラカ日ヲ置イテ、次ノ會ヲ御開キナル方が宜カラウト思ヒマス

○(後藤文一郎君) 唯今マデ大分説明ヲ承リマシタガ、矢張自分モ望月君同様に大体ノ説明ヲ全部承ツテ、サウシテ速記ヲ拜見致シマシタ以上ニ、質問ニ取掛リタイト思ヒマス、花井君ノ御説モ御尤デアリマスガ

○委員長(大岡育造君) 如何デセウカ、免ニ角モウ少シデ、此二編ガ終ツテ三編ニ移ラントスル所デスガ

○(花井卓藏君) チョット私ハ望月君ナドノ御説通デモ宜シイデスガ、ツレデ速記ヲ見ルニシテモガ、會社ダケニ止メテ置イテ貰ヒタイト云フノハ、是ハ其全部何ヲシテツレヲ待ツト云フヤウナコトニナルト、段々記憶モ減ジテ來リマスルシ、重ナル點ガ此會社ト手形ダケデアラウト私共考ヘルノデスガ、唯今ノダケデモ質問ヲシ議論ヲスル條項ガ、餘程澤山アラウト思フデス

ガ、今日はハ御止下サル譯ニハナリマスマイカ
○(後藤文一郎君) チョット委員ノ御方ニ伺ヒマスガ、是カラ先キ修正モ澤山アリマスガ、多分ニアリマスレバ、無論花井君ニ同意デアリマス、餘リ是カラ先キ修正ノ箇條ガナイト云フコトナラバ、ズット一ト通説明ヲ受ケタ方が、進行上便利ト思ヒマス

○政府委員(岡野敬次郎君) 第三編以下ニ於キマシテハ、會社ノ部ノ如クニ修正ハナイノデアリマス、數モ少クアリマスルシ、又左程大イコトハナイノデアリマス、唯前修正案ノ趣意ヲ明瞭ニスルガタメニ、新タニ加ヘタ箇條ナドモアリマス、是ハ寧ロ小サイ修正ト認メテ宜カラウト思ヒマス、殊ニ手形ノ部ニ於キマシテハ、殆ド修正ガナイト申シテモ宜イ、唯小切手ニ附イテ一ツ大ナル修正ヲ加ヘマシタ、其他ニハ餘リナイノデアリマス

○委員長(大岡育造君) ツレデハ續イテ願ヒマセウ

○政府委員(岡野敬次郎君) 續イテ修正ノ點ヲ申上ゲマス、第二百六十四條第七號——第七號ニ客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引——以前ハ「場屋ニ於テスル取引」ト云フノヲ改メタノデ、例ヘバ芝居ト云フヤウナ場合ニ、其芝居ヲヤツテ興行ヲスルト云フコトガ、即チ商取引デアアル、然ルニ以前ノ如ク「場屋ニ於テスル取引」ト云フト、先ヅ場屋ガアツテ、ソコヘ誰レカ芝居デモ見物ニ行クト、ツレヲ觀セル、其契約ガ商取引デアアルガ如ク見ヘマスルカラ、ツレヲ不穩當ト認メテ、改メタノデアリマス、次ハ第二百七十七條、第二百七十七條ト云フモノハ、是ハ新タニ加ヘタ箇條デアリマス、是ハ此民法ノ第三百四十九條ノ規定ニ付イテ、質權實行ノ方法ガ彼ノ民法三編ガ提出セラレタ場合ニ、窮屈ナコトニナツタノデアリマス、ツレハ流質ヲ禁ズル、ツレカラ豫メ法律ニ定メタ以外ノ方法ヲ以テ、質權ノ實行ガ出來ヌト云フコトニナツタ、商事上ノコトニ附イテハ、左程窮屈ニシテ置クト云フ理由モナシ、又大イニ便宜モセヌト云フト、大イニ不便ヲ感ズルコトガアル、是ハ大分實業家ノ方ノ意見モアリ、法典調查會ニ於テモ十分調査ノ上デ、斯ノ如ク質權實行ノ方法ヲ民事ト區別シテ、商事ニ附イテハ簡易ニスルト云フ趣意カラ、此規定ヲ設ケタノデアリマス、次ハ第二百七十八條ノ第三號、之ヲ新ニ加ヘタ理由ハ、先刻申シマシタ通デアリマス、次ハ第二百八十一條「金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券ノ所持人カ」ト云フノヲ新ニ加ヘタノデアリマス、此二百八十一條ノ規定ヲ適用スルニ、指圖證券ニ限ル理由ガナイ、無記名證券ノ所持人モ同ジク適用シテ宜イト云フ點カラ、改メタノデアリマス、ツレカラ第三條第一條、第三百一條ノ二行目ノ「各當事者ハ營業年度」ト云フ、是ハ元ト事業年度ト云フタノヲ改メタ、次ハ第三百二十條、第三百二十條ニ「前六條」ト云フモノヲ「本章」ト改メタ「本章ノ規定ハ」ト改メタ、是ハ趣意ニ於テ何モナイノデアリマス、次ハ第三百二十五條第一項ニ「數人相次デ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ其後者ハ」トアツタ「其」ト云フ文字ヲ取ツタ、是モ趣意ニ於テ何モナイ、ツレカラ次ハ第三百三

十四條、是ハ文字ヲ轉置シタニ止マルノデ、前ニハ「貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ運送ニ關スル事項ハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル」トアリ、タラ「貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル」ト云フコトニ改メタルノデ、次ハ第三百二十六條第二項「若シ運送人ガ既ニ」ト云フ下ニ「其」ト云フ文字ヲ加ヘタ、是ハ新ニ加ヘタルノデアリマス、ソレカラ次ハ第三百五十一條、第三百五十一條第二項ニ「一週間内ニ旅客ガ其引渡ヲ請求セサルトキハ」ト云フ此「トキ」ト云フノガ、以前ハ「場合ニ於テ」ト云フタノガ、之ヲ「トキ」ト云フコトニ修正シタルノデアリマス、ソレカラ次ハ第三百六十二條、是モ第三百二十四條ト同シ趣意デ文字ヲ轉置シタルノデ、即チ「寄託ニ關スル事項ハ」ト云フノガ、下ニアッタノヲ上ニシテ改メタルノデアリマス、ソレカラ次ハ第三百六十七條、是ハ前ノ修正案ノ第三百六十七條ヲ削ッテ、之ヲ第三百八十條トシテ先ノ方ニ持ッテ往タルノデアリマス、此修正案ノ第三百八十條ノ規定ハ、前修正案ノ第三百六十七條ト同シコトデアリマス、唯適用上或ハ不明デアルカ知ラヌト云フ所カラ、前ニアッタ規定ヲ後ニ持ッテ來タニ過ギヌ、次ハ第三百六十八條ニ「爲替手形ニ關スル規定」トアッタノヲ「爲替」ノ二字ヲ削ッタルノデアリマス、唯手形ニ關スル方ノ規定カラ拒絕證書ヲ作ル、是ハ拒絕證書ニ關スル規定ガ總則ノ中ニアッテ、爲替手形ト云フノハ不穩當デ、一般ノ手形ト云フ方ガ穩當ダト云フノデ、斯ウシタルノデアリマス、次ハ三百七十二條ニ「質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ附キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得」トアッタノヲ「質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得」ト改メタルノデ、是ハ不足額ヲ請求スルコトガ出來ルノデアルカドウカト云フ問題ヲ、表面ノ方カラ定メタルト云フコトデ、前ニハ「不足アルニ非サレハ請求ヲ爲スコトヲ得」トアルノデ、不足ガアッタ場合ニハ、屹度請求ガ出來ルカト云フコトガ少シ不明デアッタ、之ヲ改メテ正面ノ方カラ趣意ヲ現シタルノデアリマス、次ハ第三百八十條、之ヲ設ケマシタル理由ハ先刻申上ゲタ通、前修正案ノ第三百六十七條此處ヘ持ッテ來タルト云フコトニ過ギナイノデアリマス、ソレカラ次ハ第三百九十六條、前ノ修正案ハ「保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其ノ自然ノ消耗又ハ保險契約者被保險者若クハ保險金額」ヲ受取ルヘキ者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セ」トアッタノヲ「若クハ保險金額ヲ受取ルヘキ者」ト云フコトヲ削ッテ、其結果文章上「保險契約者若クハ被保險者」ト云フコトニナッタ、生命保險ニ於テハ保險金額ヲ受取ルモノハアレドモ、損害保險ニ於テハ保險契約者被保險者ノ外、保險金額ヲ受取ル者ト特別ノ名稱ヲ附ス者ハナイ、場合ニ依ッテハ保險證券ヲ讓受ケタル人間ガ、保險金額ヲ受取ルベキモノニナリマスカラ、是ハ契約者ニ權利ヲ讓ッタルモノデ、特ニ保險法ニ於テ保險金額ヲ受取ル

ベキ者ト云フコトハ不必要デアリマスカラ、削ッテシマッタ、次ハ第三百九十八條、前ニハ「保險契約者ガ保險契約ヲナスニ當リ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ云々」トアッタ、是ハ既ニ前條ト比較シテモ文章ガ合ッテ居ラナカッタカラ、前條ノ文ト同シ文體ニスルタメニ「保險契約ノ當時保險契約者ト惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス」ト云フコトニ改メタ、次ハ第四百五條、前ニハ「保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得」ト云フコトニナッテ居ル解除ガアリマス、民法ノ規定ニ依ッテ契約者雙方ガ相手ヲ以前ノ地位ニ回復セシムル義務ヲ負フテ居ル所ガ、保險者ガ破産ノ宣告ヲ受ケテモ、此修正ニハ火災保險損害保險ノ下ニ行爲ガ昔アッタガ、ソレハ例外デ殆ドナイト云フデモ宜イガ、或期間保險者ガチャント營業シテ居ル、其間ニ保險金ヲ拂ッテ居ル、萬一其間ニ損害ガ起レバ、保險者ガ直グニ保險金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フ義務ガアルガ、偶々期間ノ濟ンダ後破産ノ宣告ヲ受ケタルト云ウヲ、被保險者ガ會社ニ拂ッタル保險料ノ全額ヲ皆取レルト云フコトハ、如何ニモ酷ナ話デアアル、又法律ノ規定トシテモ可笑イノデアリマスカラ、ソコデ「解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス」ト云フ新シイ規定ヲ設ケタルノデアリマス、ソレカラ次ハ第四百十條、四百一十一條ト云フモノハ、此二箇條ハ牽聯シテ説明スル方ガ宜カラウト思ヒマスガ、以前ハ此保險期間中危險ガ著シク變更又ハ増加シタル場合ニ於テハ、變更又ハ増加ノ原因ガ、保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スベキ場合ト、歸スベカラザル場合ヲ區別セズシテ置イタルヲ、今度趣意ヲ改メテ、此被保險者ノ責ニ歸スベキ事由デアッタトキハ、直チニ保險契約ガ效力ヲ失フ、保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スベカラザル事由デアッタトキハ、保險者ガ契約ノ解除ヲナスコトガ出來ルト云フコトニ、改メタルノデアリマス、其結果第四百十條ニ加ヘル第四百一十一條ト云フモノヲ改メタルコトニナッタノデアリマス、ソレカラ次ハ第四百二十二條、是ハ直チニ文字ノ修正デアリマスガ、保險ニ付シタル建物ノ構造用方及其所在ノ場所トアッタノデス、是ハ其一項ニ於テモ二項ニ於テモ改メタルノデス、建物所在ノ用法此所在ト云フ文字ハ民法ナドニモアル文字デアッテ、ソレデ全体ヲ一ニスルタメニ改メタルハ一項モ二項モ同様デアリマス、第二項中ニ之ヲ入ル、トナッタルノデス、是ハ此方ガ穩カデアラウト云フノデアリマス、ソレカラ次ハ第四百二十九條、此四百二十九條ト云フモノハ新タニ加ヘタルデアリマス、其趣意ハ此生命保險ニ於キマシテハ、此生命ヲ持ッテ居ル者、即チ其生命ヲ保險セラレテ居ル人ヲ被保險者トナッテ居タルノデス、所ガ損害保險ノ場合デアアルト云フト、被保險者ト云フモノハ例ヘバ火災保險ニ附イテ言ヘバ、其動產ノ所有者ト、カ或ハ家ノ所有者ト云フモノガ被保險者デアアルノデス、故ニ同シ文字デアッテ、此生命保險ニ云フ所ノ其被保險者ト、損害保

險ト云フ所ノ被保險者ト云フモノトハ、違ッテ居ルノデアル、所デ生命保險ニ於テ、所謂其身體検査ヲシテシマッテ、身體検査ヲ受ケベキ人ガ、惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ゲズ、又ハ重要ナル事項ニ就キ不實ノ事ヲ告ゲタルトキト云フコトヲ加ヘマセヌト、損害保險ノ被保險者ト意味ガ變ッテ居ルノデアルカラ、其意味ノ變ッテ居ルタメニ、明瞭ヲ缺クト云フ恐レガアルノデス、ソレデ前修正案ト同一ノ趣意デアリマスガ、唯明瞭ニスルタメニ第四百二十九條ヲ加ヘタノデス、次ハ第四百三十二條、是モ新タニ加ヘタノデアリマスガ、前ニハ此案ノ第四百十二條ニ、保險者ノ負擔タル危險ノ發生ニヨリテ損害ガ生ジタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ガ其損害ノ生ジタルコトヲ知リタルトキハト云フ、此箇條ヲ準用シタノデアリマスガ、生命保險ニ於テハ保險金額ヲ受取ルベキモノト云フモノガアルカラ、保險金ハ被保險者ガ拂フコトニナル、其場合ニハ其前ニ通知ヲサセルト云フ義務ヲ負ハセルト云フコトガ當然デアルト云フノデ、之ヲ加ヘタノデアリマス、是モ矢張前條ト同シヤウニ趣意ヲ明カニスルガタメニ、加ヘタニ過ギナイノデス、次ハ第四百四十二條、此四百四十二條ノ第二項ノズツト終リニ、其役場又ハ官署若クハ公署ト又ハ以下公署ト云フマデハ、新タニ加ヘタノデス、是ハ拒絕證書ヲ作ルニ手續ヲ簡易ニシタト云フニ過ギナイノデス、ソレカラ次ハ第四百九十條、第四百九十條ノ第一項ノ一番シマヒノ方ニ、所持人ハ仕拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ト云フノヲ加ヘタノデス、是モ先刻他ノ規定ニ於テ述ベタ通デアリマス、次ハ第五百六條、第五百六條ニ爲替手形ノ所持人其他、其他ハ以前及デアッテ、其所持人モ矢張公署ニ相違ナイノデアリマスカラ、所持人モ其他ノ中ニ籠ッテ居ルト云フ趣意デ、其他ト改メタノデアリマス、ソレカラ次ハ第五百三十七條、此五百三十七條ハ一々箇條ニ附イテ説明スルノハ、甚ダ繁雜デアリマスシ、從ッテ御分リニクイカト思ヒマスカラ、其趣意ダケヲ申上ゲマス、ソレハ前修正案ニ於キマシデハ、小切手ノ引受ト云フコトヲ認メテ居ッタノデス、小切手ノ引受ト云フコトハ、爲替手形ノ引受ト云フモノト、法律上ノ性質ハ同シモノデアルト云フ趣意デ、此小切手ノ引受ケト云フコトヲ認メテ居ッタノデアリマスガ、此小切手ト云フモノハ、元來其經濟上ノ融通ノ方法ト云フモノガ、爲替手形ト違ッテ居ッテ、爲替手形ノ方ハ即チ場合ニ依ッテハ、信用ヲ利用スルト云フコトガ主義デアアル、併ナガラ小切手ト云フモノハ、信用ヲ利用スルニハ違ヒナイガ、主タル目的ハ現金ヲ拂フ代ハリヲ、小切手ヲ振出シテ與ヘルト云フノデ、即チ仕拂ノ道具トスルガタメデアアル、爲替手形ハ信用ガ條件デアアル、小切手ハ仕拂ガ條件デアアル、仕拂ノ條件デアルト云フコトニ、爲替手形ノ如ク引受ト云フモノヲ認メテ居ッテ、ソレガ長ク流通スルト云フコトハ、小切手ノ本來ノ性質ニ反對スルノデアアルカラ、引受ケト云フコトヲ認メナイ方が宜カラウ、總テ今日ノ慣習ニ於テ小切手ノ保證ト云フモノヲ認メテ居ルノデアリマス、此小切手ノ保證ト云フモノハ、丁度爲替手形ノ引受ノ如ク、保證シタモ

ノニ絶對ニ仕拂ノ義務ヲ負ハセルノデアル、併ナガラ保證ト云フコトハ無論此修正案ニ於テモ全ク認メナイノデアリマセヌガ、併ナガラ唯ソレハ手形上ノ效力ヲ獎勵スルノデアアル、矢張保證ト云フコトガ絶對ニ仕拂ノ義務ヲ負ハセルト云フコトハ、一般ノ商事又ハ民法ノ其原則ニ讓ルト云フ考デ、唯手形上ノ義務ト認メナイト云フ趣意デ、引受ト云フコトヲ取ッタノデアリマス、其結果デ此五百三十七條ニ準用シテ、彼ノ箇條ガ減シタノデアリマス、次ハ第五百三十八條ノ商行爲ヲナスト云フ文字デアリマスガ、次前ハ營利ノ目的ト云フコトデアッテ、商法ニ於テハ例ヘバ獵船ノ如キ魚ヲ取ッテ來ルトカ、或ハ鯨ヲ捕ッテ來ルトカ云フノハ、商行爲デナイノデアッテ、營利ニハ相違ナイガ商行爲デハナイ、所デ商法デハ商行爲ト云フ趣意ヲ貫イタノデアリマス、營利デハ商行爲ヲ爲ストハ認メナイノデアリマス、尤モ此商行爲ヲナスニアラザルモ、營利ノ目的ヲ以テ船舶ヲ供給スル場合ニハ、此商法ノ箇條ヲ適用スル必要ガアルノデ、ソレハ他日船舶法ト云フモノヲ提出ニナル運ビニナッテ居リマスガ、其中ニ規定スル考デアリマス、ソレカラ第五百四十五條、茲ニ「更ニ」トアルノガ、元トハ「新ニ」デアリマシタガ、始メテ航海ヲスルノデナク、一遍航海ヲシテ又航海ヲスル場合ヲ含ムノデアリマスカラ「新ニ」ト云フノヲ止メマシタノデアリマス、次ハ五百四十七條「仕拂フコトヲ要ス」ト云フノヲ「負擔スルコトヲ要ス」ト致シタ、是ハ趣意ハ違ヒマセヌ、次ハ五百五十七條「船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲シ」トアルガ、以前ノハ「營利ノ」トアッタノデ、之ヲ改メタノハ他ノ箇條ノ修正ノ趣意ト同ジデス、次ニ五百六十三條「船長ハ己ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ」ト云フ文字ヲ新タニ加ヘタノデアリマス、是ハ航海中或港ニ寄ッタ場合ニ、船長ガ何時モ其船ニ居ラナケレバナラヌト云フコトハ、從來ノ慣習ニ反スルサウデアリマス、且ツ適當ナ人間ヲ置キサヘスレバ、船長ガ必ズシモ其船ニ居ラヌデモ宜シイト云フ所カラ、此修正ヲ致シマシタ、次ハ六百十六條ノ第二項「運送品ノ一部ニ就テ生シタルトキハ」ト以前ハアッタノヲ「トキト雖モ」ト致シタ、是ハ全部ニ附イテ起タトキハ、解除ヲ爲スコトガ出來ルト云フノデアリマスカラ「トキハ」ト云フヨリ「トキト雖モ」ト云フ方が宜シイト云フ趣意、次ハ六百二十八條「證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ」トシテ以前「行フコトヲ得」トアッタノニ代ヘタノハ、是ハ文字ノ修正ニ止マルノデアリマス、次ハ六百五十八條「積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬」ト云フ字ヲ加ヘタノハ、他ノ規定ト趣意ヲ同一ニスルタメデアリマス、次ハ六百六十一條ニ、船舶ヲ保險ニ附シアル場合ト、積荷ヲ保險ニ付シタル場合トニ付イテ、保險證券ニ記載スベキ事項ガ定メタル、積荷ノ保險ノ方ニハ、船長ノ氏名發航港到達港寄航港ト云フヤウナモノヲ書カセル必要モナシ、又現ニ之ヲ必ズ書カセルト云フコトハ、今日マデ慣習ニ反シ、又事實出來モセヌト云フノデ、改メマシタ、又船舶ノ保險ノ場合ニ、以前ハ船ノ總噸數ヲ書カナケレバナラヌト云

フコトデアリマシタガ、船舶ノ名稱國籍ガ知レテ居レバ、是等ハ不必要デア
ルト云フノデ、削リマシタ、次ニ六百六十五條「積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷
ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬」ト云フダケノ文字ヲ加ヘタノデアリ
マス、是ハ趣意ニ於テ積荷ノ保險ノ場合モ、新ニ加ヘマシタ契約ノ場合モ變リ
マセヌ、次ハ六百六十七條第一號ニ「其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ」
ト入レタノハ、前來保險相續人ノ場合ニ於テ修正ノ理由ヲ述ベマシタカラ、
茲ニハ再ビ述ベマセヌ、同條ノ第三號又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益「若
クハ報酬」ノ五文字ヲ加ヘメノハ、前ノ規定ノ修正ノ趣意ト同ジデアリマス、
次ニ六百七十條ノ二行目ニ「代價ノ中ヨリ運送賃其他ノ費用ヲ控除シタル其
殘額」トアツタノヲ「控除シタルモノト」ト改メタノハ、是ハ文章上ノ修正、
次ハ六百八十三條、此規定ハ新ニ加ヘタノデアリマシテ、茲ニ所謂船舶債權
者ト稱スルモノ、先取特權ト、ソレカラ民法ニ定メテアル先取特權ト云フ
モノガアルノデ、船舶債權者ノ先取特權ヲ保護スル上カラ云ヘバ、若シモ船
舶債權者ノ先取特權ト、民法ノ先取特權ト、併行シタ場合ニハ固ヨリ此船舶
ノ債權者ノ先取特權ノ方ヲ保護シナケレバナラヌ、ソレハ船舶ノ債權者ヲ認
メル當然ノ結果デアルト言ッテ宜シイ、其趣意ヲ明カニスルガタメデアリマ
ス、次ニ六百六十三條ヲ加ヘマシタ、是ダケデ修正條項ノ大体ノ説明ヲ了リ
マシタ

○委員長(大岡育造君) 本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時十四分散會

明治三十二年二月七日印刷

明治三十二年二月七日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局